

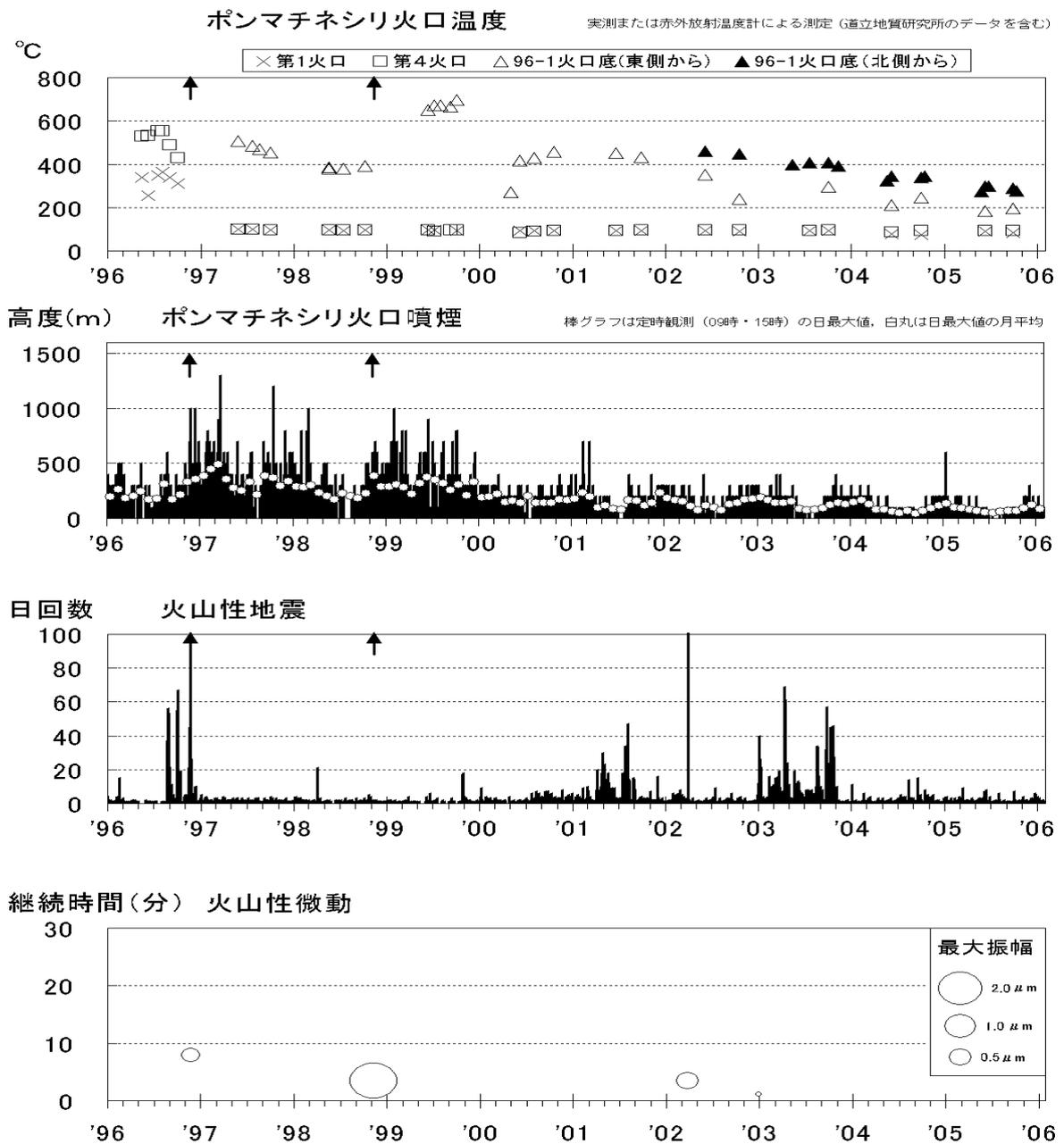
雌阿寒岳

1 概況

噴煙の状況に変化はなく、火山活動は比較的静穏な状態となっています。

2 噴煙の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間 (2005 年 12 月) と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降低下傾向が続いています。



最近の火山活動経過図 (1996 年 1 月 1 日 ~ 2006 年 1 月 31 日) ↑印は噴火

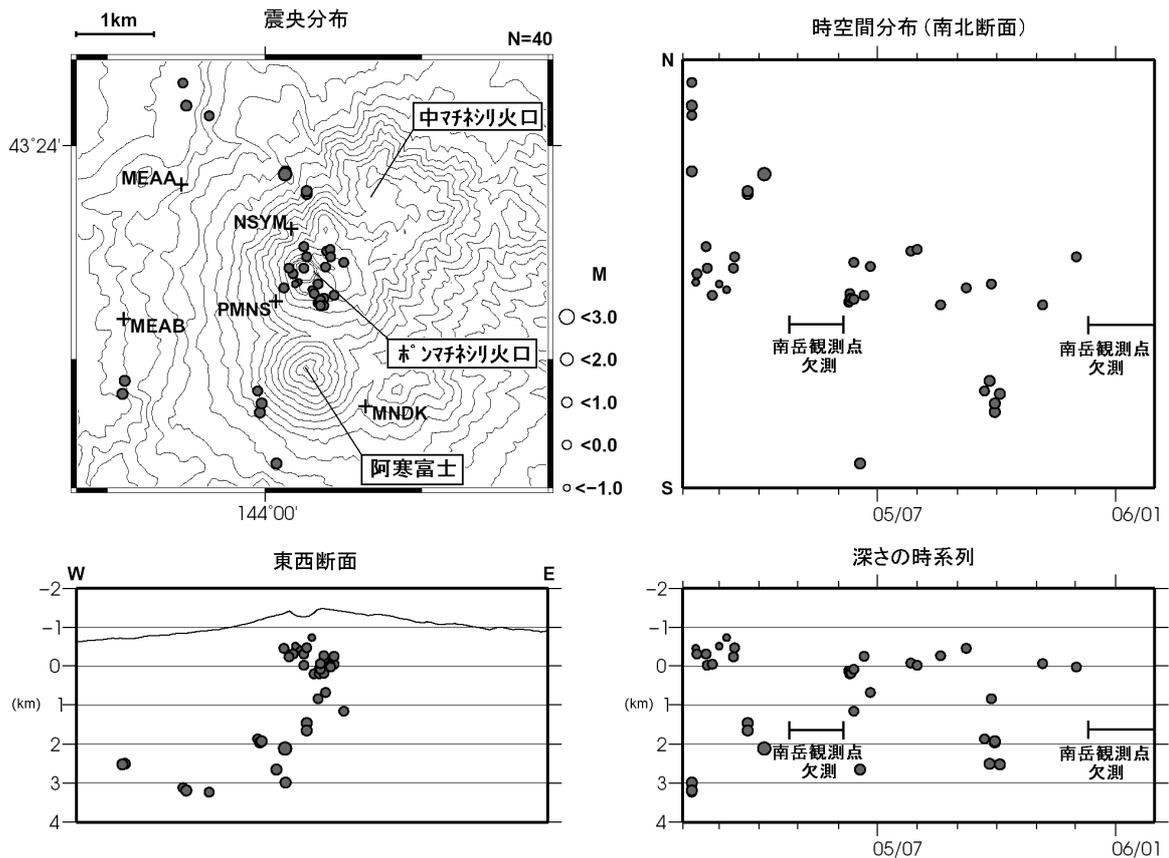
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用したものである。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

3 地震および微動の発生状況

ポンマチネシリ火口付近を震源とする地震は 1 日あたり 0~3 回と少なく、静穏に経過しました。火山性微動は 2003 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数 (B 点)

2005~2006 年	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
地震回数	19	32	20	20	40	14	16	18	22	20	44	22
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



雌阿寒岳の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点)

今期間、雌阿寒岳で発生した地震の多くはポンマチネシリ火口直下の海面付近で発生したと推定されますが、南岳地震計障害 (2005 年 12 月 11 日~) のため震源が求まっていません。

●印は前期間までの 11 ヶ月間 (2005 年 2 月 1 日~2005 年 12 月 31 日) に求まった震源を示しています (40 個)。

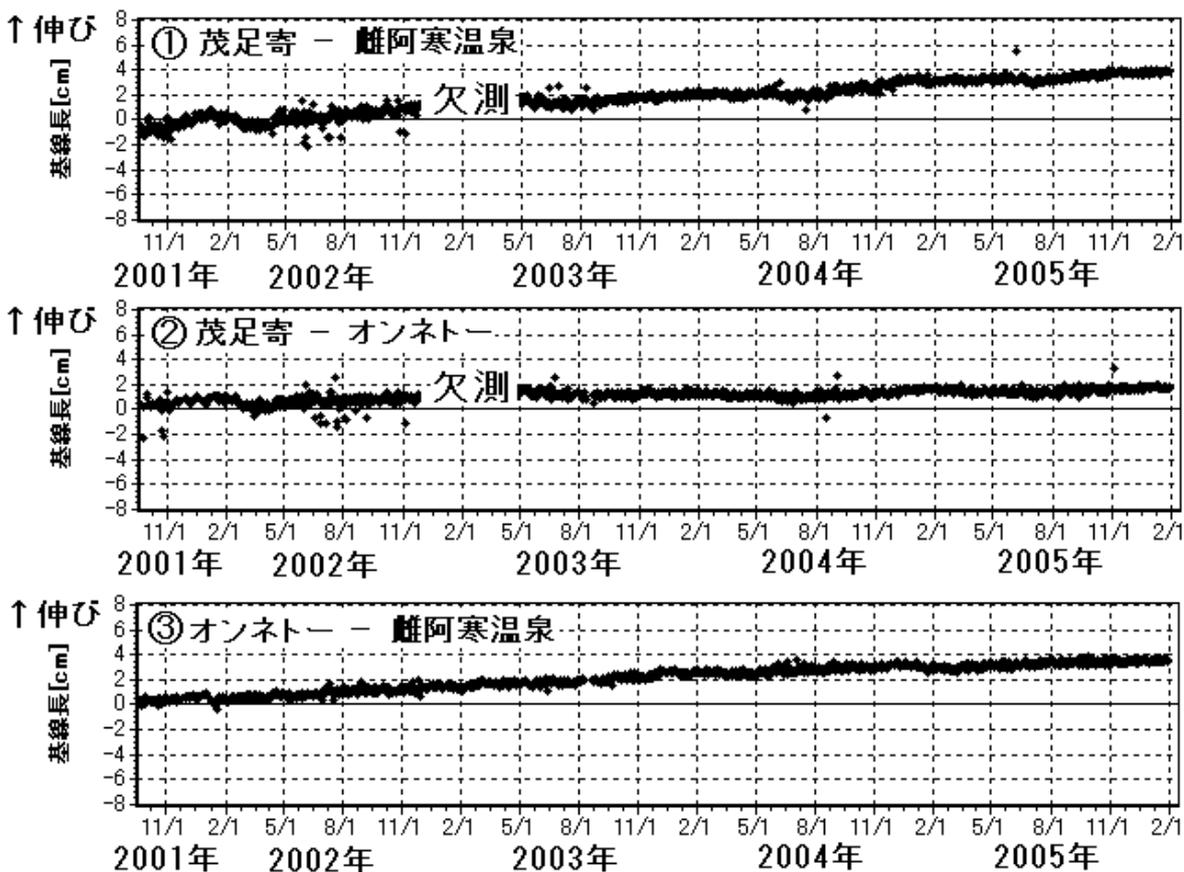
震源はポンマチネシリ火口直下の海面付近と北西および南西山麓のやや深いところ (海面下約 3km) に分布しています。

震源分布図の説明

- ・東西断面 : 震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布 : 震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列 : 時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化 (2001年9月19日~2006年1月31日)

